

営農技術情報 (第3号)

～「JA富山市米品質向上生産運動」実施中～

1等米比率90%以上を達成しよう!!

品質の高い米を生産するには、**充実した太い茎と元気な根を確保することが重要です。**
そのため、次の作業を行いましょ。

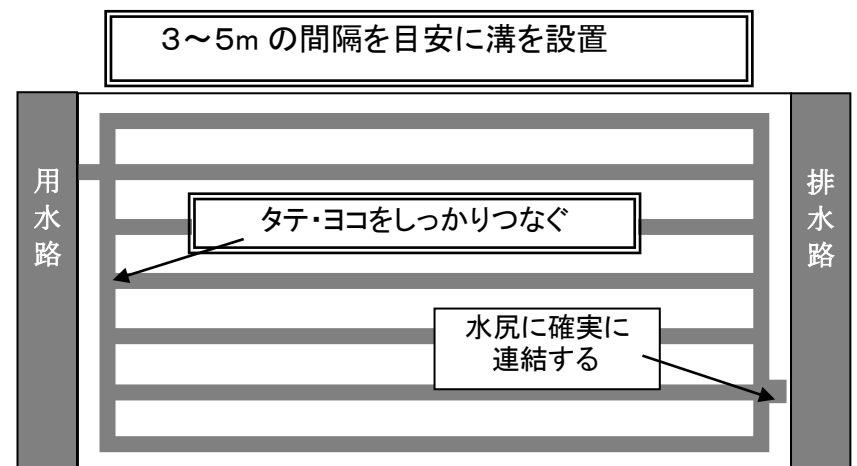
- ① 中干しを効果的に行うため、「**溝掘り**」を確実に実施しましょ。
- ② 田植え1か月後までに「中干し」を開始し、根の健全化を図りましょ。

1. 溝掘り 6月上旬までに溝掘りを行い、中干しの準備をしましょ

中干しや、その後の間断かん水を効果的に行うため、必ず溝掘りを行いましょ。

<溝掘りのポイント>

- ・形が崩れないよう軽く田干しを行い、泥を固めた後、3～5mの間隔を目安に溝を掘る。
- ・溝と水尻は確実に連結する。
- ・水の切れないほ場では設置本数を増やす。



2. 中干し 田植えの1か月後までに中干しを始め、確実に田面を固めましょ

6月に入ると急激に分げつが増加します。田植えの1か月後までに遅れず「中干し」を開始しましょ。

また、出穂後20日間の湛水管理に備え、この時期に確実に田面を固めるようにしましょ。

①中干し時期の目安

田植日	中干し時期
5月10日	6月10日までに開始
5月15日	6月15日までに開始

◎中干しの効果

- ・無効分げつの抑制
- ・土中への酸素供給
- ・地耐力の向上



②中干し程度

- ・田面に軽い亀裂が入る程度を目安に干しましょ。
- ・復元田は、土がしまりやすいため、一度に干しあげず、徐々に干しましょ。

普通乾田

→ 干す期間は5日間程度が目安
干し過ぎに注意!!



中干しの終了は、ほ場中央部でくるぶしが軽く沈む程度を目安とする。



3. 中干し後の水管理 中干しが終了したら間断かん水を行いましょう

中干し後は、幼穂形成期頃まで湛水と落水を繰り返す間断かん水を実施しましょう。
幼穂形成期まで足跡の深さ3cm程度を目標に地固めしましょう。

4. 中間追肥の施用 ケイ酸、カリの施用で、丈夫な稲体に仕上げましょう

<施肥量の目安>

肥料名	時期	10a当たり施用量
エスアイ加里らくだ	6月中旬～下旬	15kg
エスアイ加里カリ投げくん		4kg (200g×20個)
シンキョーライトP		20kg

○珪酸の施用効果
<ul style="list-style-type: none"> ・根の活力を高める ・フェーン時に水分の蒸散を防ぐ ・茎葉を丈夫にし、倒伏を防ぐ ・受光態勢を良くし登熟を高める

5. 後期除草剤の散布 雑草が残った場合、使用方法を確認し、遅れずに散布しましょう

雑草の状況	除草剤名	10a当たり散布量	散布時期	使用回数	使用上の注意
ホタルイ オモダカ などが残った場合	バサグラン 粒剤	3～4kg	田植後15～55日 (収穫60日前まで)	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・落水して雑草を露出させ、晴天日を選んで散布する ・散布後3～4日間は田に水を入れず、また降雨によって薬剤が流出しないよう、水尻は必ず止めておく ・スポット散布も可
ノビエ のみ残った場合	トドメMF 1キロ粒剤	1kg	田植後14日～ ノビエ5葉期まで (収穫50日前まで)	3回以内	<ul style="list-style-type: none"> ・散布の際は、やや深めの湛水状態とする ・散布後、3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は落水やかけ流さない
	ヒエクリーン 豆つぶ250	250g	田植後15日～ ノビエ4葉期まで (収穫45日前まで)	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・散布の際は、やや深めの湛水状態とする ・散布後、3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は落水やかけ流さない
ノビエ ホタルイ オモダカ などが残った場合	ワイドショット 1キロ粒剤	1kg	田植後15日～ ノビエ4葉期まで (収穫45日前まで)	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・散布の際は、湛水状態で田面に均一に散布する ・散布後、3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は落水やかけ流さない
	クリンチャー バスME液剤	1,000ml 希釈水量 70～100L	田植後15日～ ノビエ5葉期まで (収穫50日前まで)	2回以内	<ul style="list-style-type: none"> ・10a当り1,000mlの薬剤を70～100Lの水で希釈し、落水状態で雑草の茎葉に確実に付着するよう丁寧に散布する ・散布後3～4日は入水や落水をしない

- ・除草剤の効果を高めるため、散布前に軽い田干しを行い、水の入替えを行ってから散布しましょう。
- ・除草剤散布の際には、周辺の作物に飛散しないよう注意しましょう。